

---

# 人文会 ニュース

---

業務用

歴史学における日常性の研究動向とその意味  
——アナル派と日本歴史学

明治学院大学助教授 武光 誠 1

アナル派の歴史学…………… みすず書房 長野 聰 9

'86.3 44

〈晶文社アルヒーフ〉

## 転回点—マン家の人々

クラウス・マン 小栗浩・渋谷寿一・青柳謙二訳 20世紀の激動の時代を最も深く生きたトーマス・マン父子の運命。偉大な父を愛し、父に叛き、そして敗れ去った息子クラウスが、自殺直前に書き遺した膨大な回想録。4800円

## 思い出のオーウェル

A・コバード、B・クリック編 オーウェル会訳 ナショナリズムと全体主義を憎み、真の「人間らしさ」とは何かを追いつづけたイギリスの作家ジョージ・オーウェル。矛盾と謎にみちたその46年の生涯を、家族、友人、仕事仲間ら52人が証言する。3800円

**晶文社** 東京都千代田区外神田2-1-12  
電話 (255) 4501

新しい観点から今  
「しつけ」について考える！

# しつけ を考える本

### 厳しく愛する心

ダン・カイルー著

〈しつけの原則〉は、国境・文化を越えた普遍的なものである。ベストセラー『ピーターパン・シンドローム』の著者が、子どもの教育、しつけに悩む親たちに贈る待望のガイドブック。  
近藤 裕訳 四六判・定価2000円

## 社会思想社

東京文京区本郷1-25 ☎03-813-8105

## 誠信書房

東京都文京区大塚3-20-6

R・メトロー編／原 ひろ子監訳・宇川和子訳  
著名な人類学者が、女性、教育、社会など様々な問題についてのびやかに語る。 二五〇〇円

## マーガレット・ミードは語る

**フロイトの社会思想**  
政治・宗教・文明の精神分析  
P・ロイゼン／馬場謙一・小松 啓訳 フロイト理論の政治、社会思想、宗教への貢献とその限界を明晰に論じた注目の書。 三〇〇〇円

自伝的中国現代史——  
——全5巻完結！

4 5

# 不死鳥の国

上・下

ハン・スーイン著／長尾喜又訳

新生中国の実像を描く貴重な証言

動乱の祖国を「慕情」の香港時代から文革終結まで、鋭い観察眼で内側から捉えた迫真の革命史。 各3500円

既刊  
③ 無鳥の夏 ② 転生の華  
① 悲傷の樹  
〈新装〉各2800円

**春秋社** 東京都千代田区外神田  
2-18-6 ☎(03)255-9611

# 歴史学における日常性の研究動向とその意味

—アナール派と日本歴史学—

明治学院大学助教授 武光誠

はじめに

現在、歴史学の研究についての一つの転換期が訪れつつあるように思われる。

そのような転機をうみ出した原因は、近年、歴史学が一部の研究者だけのものから、多くの一般読者のものへ

と変わっていったことに求められる。専門家のみにわかる難しい歴史理論には、一般読者はない。かれらを引きつけるには、現代の人間生活にかかわる身近な問題を扱わねばならない。また、多様な読者の求めに答えるためには、きわめて多方向にわたる研究が必要となる。それゆえ、戦後の日本で持てはやされた整った理論

体系から出発するマルクス、ウェーバー、トインビーなどの歴史学にかわって、フランスにおこったアナール派とよばれる人びとの研究が注目されるようになったのである。

アナール派とは、『アナール』誌を中心に活躍する学者たちをさす。アナール派の大部分は歴史学者であるが、歴史学の周辺の学問にとり組む者も積極的に『アナール』に寄稿している。アナール派の論文は、「結婚の民衆儀礼における婚礼行列の家徴機能」とか「パリの読書クラブ」とかいった人間生活に密着した具体的な主題をとり上げたものである。ただし、それらは個別の事象について考証したものとどまらず、身近な事実を歴史の全体像のなかに位置づけようとする視野にもとづいてまとめられている。その点が、従来の生活史や民俗学の諸研究とアナール派の学問とのもっとも大きな相違点であると評価できる。

アナール派は、最初に基本的な理論を組み立てたうえで具体的な事象にあたっていくマルクス主義などの歴史学の方法と異なるいきかたをとっている。それゆえ、アナール派の歴史観の全体像をつかむことは、ほとんど不

可能である。しかも、アナール派およびその影響をうけた研究者たちは、現時点においてその活動を活発化しつつあるし、フランスにおけるアナール派の最近の業績はまだ日本に紹介されていない。

それゆえ、私の限られた知識によってアナール派の研究動向を紹介すると、誤りをおかすおそれがある。それゆえ、新評論の『アナール論文選』四冊を手がかりに、アナール派のとりあげた問題のいくつかについてかんたんな解説を加えるにとどめておきたい。そこには、「魔女とシャリヴァリ」などのアナール派が注目してきた四つの主題についての重要な論文とそれについての日本人の研究者の批評がのせられており、それを紹介するだけで、アナール派の研究の性格をある程度明らかにすることができると思われるからである。そして、そのようなアナール派の紹介のあとで、アナール派と日本の歴史学者とのかわりについてのべてみたい。

#### 一、魔女とシャリヴァリ

ヨーロッパでは古くからキリスト教以前の土着の信仰

にもとづく呪術師が活躍していた。ところが、封建制が転換期をむかえ、科学が芽生え各国の統一がはじまる十四世紀になって、突如として、そのような呪術師が魔女とよばれて迫害をうけるようになる。そういうった魔女狩りは、カトリック教団の異端審問の一部としてなされるのであるが、絶対王制が確立した十七世紀になると、魔女裁判は急速に姿を消していく。

また、十四、五世紀におこり、十七、八世紀に盛行するシャリヴァリは、共同体の規律に反した者を入びとが罰する儀式化した制裁である。それは、おもに中年の男女と若い男女との結婚、間男、同性愛などの性的な罪を犯した者に対してなされる。共同体の青年たちがシャリヴァリをうける者に夜間おもむき、罪人を捕えて公衆の面前でロバや板の上にくくりつけて引きまわし、共同体から追放するのである。

アナル派の人びとは、そのような魔女やシャリヴァリの歴史の意味をあれこれ考えているのである。魔女を支配者の抑圧にたいする反抗とみて、社会不安のなかで支配層が民衆を抑えつける一つの手段として魔女狩りを行なったとする見解。シャリヴァリを性についての秩序

に反抗する者への社会的制裁とみたり、また民衆の支配層への攻撃が支配層の性の乱れを口実になされたのがシャリヴァリだとする説などが出されている。そして、魔女狩りやシャリヴァリがヨーロッパ近代化の過程における特殊なものか、あるいは人類にとって普遍的な現象の一つのあらわれにすぎないか等の問題をめぐりつつ、研究が深められつつある。

## 二、家族をめぐって

日本では、戦後、日本社会の特性を考える視点から家の研究がさかんなされた。ところが、ヨーロッパでは近年になってようやく家族の歴史が注目されるようになったのである。

日本では、家族の研究は、親子や家長を中心としてすすめられてきたが、ヨーロッパの家族の研究が、夫婦のつながりを視野の中心においてなされてきたことは重要である。そして、ヨーロッパの家族の研究がさかんになった背景に、現代において家族関係が大きな変容をとげつつあることがあげられる。

ヨーロッパの家族研究の先駆けは、絶対王制下の家族関係を子供を中心にみたアリエスの業績に求められる。

それは、一九六〇年に刊行されたのであるが、その後の家族研究は、歴史人口学の視点からのものと、歴史人類学の方向からのものとに分けられるといわれている。

ヨーロッパには、教区の司祭が教区民の洗礼、結婚、埋葬を記録した教区簿冊をつける風習があった。それは、十六世紀にはじまり、十七世紀後半より整備がすすめられたのである。今日でもフランス人は結婚などのことはまっ先に教会にとどけると言われている。それゆえ、教区簿冊を数量的に分析すれば、前近代における家族のありかたを復原することができる。ゆえに、一九六二年に歴史人口学会が生まれ、前近代の家族についての統計的研究がすすんだ。さらに、そのような統計を社会史として位置づけようとする試みもおこりつつある。

歴史人類学では、結婚などの風習を復原することをしつつ、前近代の家族のありかたなどを明らかにしてきた。そのような研究が、民俗学と歴史学とを有機的にかわらせる視野をひらきつつある。

### 三、医学史の研究

医学史はもともと科学史の一分野としてすすめられてきた。それは、医療にとり組む人びとの活動を明らかにするものであった。ところが、アナル派の医学史は、病気に苦しむ人びと、あるいは現代の医学につながる非科学的な迷信をとり上げている。それゆえ、そういった研究に接するとき、私たちはいやおうなしに人類の無知や弱さに直面せねばならなくなり、思わず「もう止めてくれ」と叫びたくなる。

ペストの流行に注目してそれを詳細に分析したのもアナル派である。また、西洋医学が病原菌発見を試みただけでなく人体の構造を深く追求したこともアナル派によって研究されている。しかし、日本人の目からみて、解剖についての詳細な話はあまり気もちのよいものではない。また、西洋の医師が支配層にあつく、民衆に対してはほとんど施されることがなかった点も明らかにされている。アナル派の医学にたいする関心は、現代人が病気をおそれることから発したといわれるが、単にそれだけでなく、医学以外のさまざまな学問と民衆との

かかわりも考えられはじめつつある。

#### 四、都市について

現代、都会生活が人間にとって重要な役割をはたすようになったために、都市の発生期にさかのぼり、人間と都市とのかかわりを明らかにしようとする試みをはじめられるようになってきた。

アナール派が注目した問題のひとつに、都市が人間にとってどのような機能をもっているかとの問いかけがある。君主の居住地、軍事上の中心地、商業の中継地、娯楽の場といった多くの面を都市は有するとされ、その諸機能のかかわりが考えられつつある。

また、都市が周辺の農村をふくむ地域においてどのような役割をはたしているかとの点も注目されている。そして、産業の進展にともない都市の役割が拡大されていくといわれている。さらに、歴史人口学とからめつつ都市の人員の構成をみたり、都市の空間がどのような用途にわかれているかを追求したり、都市の貧民のありかたを研究したり、きわめて多くの視点から、都市研究がす

すめられている。

今後も、きわめて多様な視野で都市研究がすすめられていくと思われるが、教会、大学や封建制下の学問と都市民とのかかわりを詳細に分析した研究が望まれる。

#### 五、日本の西洋史学とアナール派

近年、アナール派にならって西洋の中世の人びとの日常生活の研究から出発して西洋史を考えていこうとする方向がさかんになりつつある。そのような研究に取りくんでいる学者の代表的な方として、木村尚三郎氏、阿部謹也氏、鯖田豊之氏があげられる。

木村氏は、ヨーロッパ中世の婚姻や家族のありかた等を研究しており、阿部氏は、ハーメルンの笛吹き伝説をとり上げてその背後にあるヨーロッパの都市民の生活を考察している。また、鯖田氏はヨーロッパ人の食生活を肉食の面よりみていき、牧畜がヨーロッパ社会の特性をつくり上げたとする。

そのほかに、パリの町の性格にせまる喜安朗氏の研究、医学を扱う矢部一郎氏の業績、家族を扱った有地亨氏や

安元稔氏の仕事など各方面の研究が盛行のまざしをみせつつある。

#### 六、これまでの日本生活史の研究

日本人の生活史については、さまざまな方面から多くの研究がなされている。民間の習俗を手がかりにする柳田国男、折口信夫、和歌森太郎らの民俗学では、多方面から前近代の人びとの生活を推測した業績が出されている。また、そこから派生した風俗史学では、民俗学の資料と文献史料とを有機的に連関させて前近代の生活を明らかにしていこうとする試みがみられる。樋口清之氏、西山松之助氏、山中裕氏らが風俗史学を代表する研究者である。

また、それらとは異なる独自の視野にもとづいて民衆の生活史を明らかにした西岡虎之助氏の業績も注目される。さらに、古代人の食生活と服装について基礎的な研究を行なった関根真隆氏や古代の音楽を扱った荻美津夫氏などの特定の分野にかかわる研究をあげていくときりがない。

ただし、そのような日本人の生活史の諸研究は、昔の事象にたいする考証といった水準を出していない点で、アナル派と異なっている。つまり、そこには前近代の生活史上の事象を歴史上に位置づけ、その現代的意義を明らかにする視点がみられないのである。もっとも、アナル派にならった問題関心により日本人の生活史を見なおすばあいに、これまで紹介したような諸研究が有力な手がかりになることはまちがいない。

#### 七、アナル派の視点による日本史の研究

アナル派に近い問題関心により日本史にとり組んだ業績が近年、ようやく現われつつある。そのなかでもとくに注目すべきものに網野善彦氏の研究がある。氏は中世の非農業民に注目し、その動きにより封建制の変質過程を描きだしている。また、新村拓氏は古代の医療を当時の社会生活のうえに位置づける試みをはじめている。速水融氏は江戸時代の歴史人口学にとり組んでいる。

このような動きをうけて、日常生活を出発点とした歴史の研究がさかんになっていくことはまちがいない。た

だし、そのばあいアナル派はあくまでもヨーロッパ人の関心から生じた研究方法である点を忘れてはならないように思える。日本人の生活をみるには日本にあった視角で扱うことが必要である。前近代の日本人がヨーロッパの個人主義にもとづいて行動していたかのような考えで日本の史料にあたると大きな誤りを犯すおそれがあるように思える。

●文献表

二宮正之他編『アナル論文選1 魔女とシャリヴァリ』・『アナル論文選2 家の歴史社会学』・『アナル論文選3

医と病い』・『アナル論文選4 都市空間の解剖』(新評論)

パッシュビッツ『魔女と魔女裁判』(法政大学出版会)

ヒューズ『呪術』(筑摩書房)

森島恒雄『魔女狩り』(岩波書店)

浜林正夫『魔女の社会史』(未来社)

リグリー『人口と歴史』(筑摩書房)

アリエス『へ子供』の誕生』(みすず書房)

セガレーヌ『妻と夫の社会史』(新評論)

有地亨『家族制度研究序説』(法律文化社)

『フランスの親子・日本の親子』(日本放送出版協会)

稲本洋之助『近代相続法の研究』(岩波書店)

安本稔『イギリスの人口と経済』(ミネルヴァ書房)

ルークス『へ母と子』の民俗史』(新評論)

〈刊行開始〉

家庭や施設で子どもとともに学ぶ絵本シリーズ

シリーズ生活を学ぶ

子どもの豊かな感受性や能力を育てるために、料理、一日の生活、遊び、栽培、社会生活、保健と性などを、楽しい絵とわかりやすい文章でつづる絵本シリーズ。 B5判/2色刷/各一六〇〇円



〈全6巻の構成〉

- ① つくつて食べよう 大石清吉編 発売中
- ② おはようおやすみ 原井利夫編 続刊
- ③ あそぼうつくろう 喜田正美編 4月刊
- ④ 育てるたのしさ 坂田紀行編 続刊
- ⑤ 遠くへ行きたいな 富岡達夫編 続刊
- ⑥ わたしたちのからだ 大井清吉編 最新刊

福村出版

東京・文京・小石川1-3/電話(03)813-3981

矢部一郎『西洋医学の歴史』(恒和出版)  
村上陽一郎『ベスト大流行』(岩波書店)  
立川昭二『病気の社会史』(日本放送出版協会)  
ウィーベルソン『工業都市の誕生』(井上書院)  
ギーディオソ『空間、時間、建築』(丸善)  
サールマン『パリ大改造』(井上書院)  
ジッテ『広場の造形』(鹿島出版会)  
ピレンヌ『中世都市』(創文社)  
マルレ『タブロー・ド・パリ』(新評論)  
増田四郎『都市』(筑摩書房)  
喜安朗『パリの聖月曜日』(平凡社)  
ベルセ『祭りと叛乱』(新評論)  
ディオソ『監獄の時代』(新評論)  
木村尚三郎『色めがね西洋草紙』(角川書店)  
阿部謹也『ハーメルンの笛吹き男』(平凡社)  
『ドイツ中世後期の世界』(未來社)  
鯖田豊之『肉食の思想』(中央公論社)

木村尚三郎『都市文明の源流』(東京大学出版会)  
柳田国男『海上の道』(筑摩書房)  
折口信夫『古代研究』(中央公論社)  
和歌森太郎『修験道史研究』(平凡社)  
樋口清之『梅干と日本刀』(祥伝社)  
西山松之助『江戸っ子』(吉川弘文館)  
山中裕『平安朝の年中行事』(塙書房)  
西岡虎之助『日本文学における生活史の研究』(東京大学出版会)  
関根真隆『日本古代食生活の研究』(吉川弘文館)  
『日本古代服飾の研究』(吉川弘文館)  
荻美津夫『日本古代音楽史の研究』(吉川弘文館)  
網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』(岩波書店)  
『無縁・公界・楽』(平凡社)  
新村拓『日本古代医療社会史の研究』(法政大学出版局)  
速水融『近世農村の歴史人口学的研究』(東洋経済新報社)

# アナル派の歴史学

みすず書房 長野 聰

ここ数年来アナル派（ないしはアナール派）という言葉葉をよく耳にするようになった。昨年六月に完結した新版の平凡社大百科事典にも「アナール学派」の項が見られる。

専門家は別にして一般の人にもこの語が知られるようになったきっかけは何かと考えると、エマニュエル・ル

ロワラデュリの『モンタイユ、オック地方の村——一二九四年から一三二四年まで』（一九七五年刊。未邦訳）の成功が挙げられるのではなからうか。この六四〇ページの大著はフランス読書界の話題をさらい、三年かそこらの間に二〇万部も売れたのである。ルロワラデュリはアナル派を代表する人物の一人であった（彼は

一九八三年秋来日している)。これ以後、日本でもアナル派の人々の著作に対する関心が大いに高まり、邦訳も続々と刊行されるようになった。いまやアナル派の人々の仕事をぬきにして歴史は語れないと言っても過言ではないような状況なのである。

アナル派という名称は、一九二九年にフランスのストラスブールでルシアン・フェーヴルとマルク・ブロックによって創刊された学術誌『経済・社会史年報』<sup>『アナル』</sup>に由来する。誌名はその後『社会史年報』『社会史雑纂』などと変わったが、一九四六年から『年報——経済・社会・文明』となり現在に至っている。

なぜアナル派が注目を集めているのかといえば、その新鮮さにあるだろう。では、どのような点が新しいのだろうか。

大きく言って、われわれがあまりにも慣れ親しんでいるために、あたり前のこととして見過ごしてきた日常生活に光を当てたことである。飲食物、食器、衣服、住居など、はるか昔から人間とともにあるもの（あるいはそれなしでは生きていけないもの）、それらを媒介にしてとり結ばれる人間と人間の関係を歴史学の対象としたの

である。フェーヴルの死（一九五六年）後『年報』の編集長となってアナル派を率いてきたフェルナン・ブローデルの『日常性の構造』は、まさにこの日常生活を扱っている。おもしろい逸話をちりばめ、多数の写真・図版を用いて十五—十八世紀の人々の生活を世界規模で生き生きと描き出している。（残念なことに、ブローデルは一九八五年十一月、八十三歳で逝去した。全三巻の予定で進めていた『フランス史』の刊行を目前にして。）

アナル派に顕著に見られるのは、人々の意識のあり方・心性（マンタリテ）に焦点を合せる傾向である。ル・ロワラデュリの『ジャスマンの魔女』は、フランス南部アジャンの理髪師・詩人ジャック・ポエ（ジャスマン）が民間伝承を集めて書いた魔女の物語詩を歴史的に復元し、民間信仰を説明する。

フィリップ・アリエスも心性に関心をもつ歴史家である。アリエスは晩年にアナル派の拠点である社会科学高等研究院の研究主任となったが、それまでは大学にポストを得ることなく『日曜歴史家』として歴史研究にたずさわってきた。その代表作『へ子供』の誕生』は、子供は長い歴史の流れの中で、独自のモラル・固有の感情をもつ

実在として見られたことはなく、〈子供〉の発見は近代の出来事であることを示し、読書界に衝撃を与えた。また『死と歴史』は、〈死を前にしての態度〉についての、変わった部分と変わらない部分の考察、そして二十世紀の産業化・都市化の果ての未曾有の断絶についての考察である。

カルロ・ギンズブルグは膨大な裁判記録を発掘し、異端裁判から浮び上がってくる民衆の信仰を明らかにした。次に挙げる二つの著作がそれである。

『チーズとうじ虫』は、十六世紀北イタリアのフリウリ地方に住む粉挽屋メノッキオの生きたミクロコスモスを復元する。「私が信じているのは、すべてはカオスである。すなわち、土、空気、水、火などこれらの全体はカ

オスである。この全体はしだいに塊りになっていった。ちょうど牛乳のなからチーズの塊りができ、そこからうじ虫があらわれてくるように、このうじ虫のように出現してくるのが天使たちなのだ……。」

最近訳出されて注目を集めている『夜の合戦』（ベンダンテイ）は、『チーズとうじ虫』と同じフリウリ地方を舞台とする。十六十七世紀、ここにベナンダンテと呼ばれる一群の男女が存在した。彼らは四季の斎日の夜、肉体を残したまま靈魂となって、方々の畑や牧草地に出かけていき、作物の豊凶をかけて、ストレゴーネやストレーガたち（悪い男女の魔法使い）と戦う。悪い魔法使いたちはモロコシの茎を武器に、ベナンダンテたちはウィキョウの枝を持って。この民間信仰を異端審問官

●近くて遠い国がほんとうに近くなる!!

# 朝鮮を知る事典



監修 伊藤亜人 梶村秀樹 大村益夫 武田幸男 歴史や文化は勿論、衣食住や風俗習慣にいたるまで、南北を含め朝鮮のすべてを知るための1200項目を120人が分担執筆した画期的な事典。A5判、520ページ 図版150点 ●定価3,600円

●人びとの息吹が聞こえてくる!

# トピックス&エピソード 世界史大年表

著 J・トレーガー 訳 鈴木主税  
暮らしに密着した話題3万を集めた人間生活史。  
●特別定価9,800円(61年5月発まで定価12,000円)

平凡社

〒102 東京都千代田区三番町5  
振替・東京8-29639

は自分の知的神学的枠組の中に引き入れて解釈しようとする。ここに審問官の文化と民衆の文化との交差、ぶつかり合いが生ずるのである。

ギンズブルグについては、今後もしろいろな邦訳が予定されていると聞く。「神は細部に宿れり」を方法上のモットーとする彼が、その細部からどのような歴史を織り成してくるのか、期待をもって見まもりたい。

イマニユエル・ウォーラーSTEINはブローデルの影響を受けて「世界経済」論を打ち出している。「世界経済」とは、地球全体の経済のことではなく、経済的に自律性を有し、必要不可欠なものに関しては何足することができ、域内的な連絡および交換によって一定の有機的一性を付与されている、といった地域を指す。ウォーラーSTEINのいう「世界経済」には三つの構成要素、すなわち中核・半辺境・辺境がある。『近代世界システム』は十六世紀における「ヨーロッパ世界経済」の成立を論じ、経済史・経済学・社会学の分野で大きな関心を呼んだ。これに続いて『史的システムとしての資本主義』も訳出された。

以上アナル派の特徴についてきわめて簡単なスケッチ

を試みてみた。ル・ロワラデュリの『新しい歴史』には、アナル派を中心にしたフランスの新史学の動向や方法について適切な概観が与えられているので、詳しく知りたい方はこれを参照していただきたい。従来の歴史学が対象としてこなかった領域に光を当てるアナル派の仕事は、今後也大いに話題を提供することだろう。

最後にアナル派およびその関連の邦訳書を著者名なしは叢書名別に挙げておこう。

## ●文献表

- リュシアン・フェーヴル『歴史のための闘い』（創文社）  
『フランス・ルネサンスの文明』（創文社）  
マルク・ブロック『封建社会1・2』（みすず書房）  
『フランス農村史の基本性格』（創文社）  
『比較史の方法』（創文社）  
『歴史のための弁明』（岩波書店）  
フェルナン・ブローデル『日常性の構造1・2』（みすず書房）  
エマニユエル・ル・ロワラデュリ『新しい歴史』（新評論）  
『ジャスミンの魔女』（新評論）

ジャック・ルゴフ『中世の知識人』(岩波新書)

ポール・ヴェーヌ『歴史をどう書くか』(法政大学出版局)

『差異の目録』(法政大学出版局)

ジョルジュ・デュビイー『中世の結婚』(新評論)

ピエール・ディオソ『監獄の時代』(新評論)

フィリップ・アリエス『へ子供』の誕生』(みすず書房)

『死と歴史』(みすず書房)

『日曜歴史家』(みすず書房)

『へ教育』の誕生』(新評論)

イマニュエル・ウォーラーステイン『近代世界システム1・2』

(岩波書店)

『史的システムとしての資本主義』(岩波書店)

ナタン・ワシュテル『敗者の想像力』(岩波書店)

カルロ・ギンズブルグ『チーズとうじ虫』(みすず書房)

『夜の合戦』(みすず書房)

『ベナンダンティ』(せりか書房)

ナタリー・デーヴィス『マルタン・ゲールの帰還』(平凡社)

ジュール・ミシュレ『魔女1・2』(現代思潮社)

『魔女1・2』(岩波文庫)

『フランス革命史』(世界の名著 37 ミシュレ)(中央公論

社)

『民衆』(みすず書房)

叢書・歴史を拓くへアナル論文選

『魔女とシャリヴァリ』(新評論)

『家の歴史社会学』(新評論)

『医と病い』(新評論)

シリーズ・プラグを抜く

『歴史のメトドロジ』(新評論)

# 人文会会員名簿

(113-91 東京都文京区 本郷局私書函89号) 60. 8. 現在

	社名	担当者	〒番号	所在地	電話
幹事	青木書店	山根 襄	101	千代田区神田神保町1-60	292-0481
幹事	大月書店	原田 敦雄	113	文京区本郷2-11-9	813-4651
	御茶の水書房	橋本 盛作	102	千代田区九段北1-8-2	230-2510
幹事	紀伊國屋書店	佐久間健雄	156	世田谷区桜丘5-38-1	439-0125
	勁草書房	石橋 雄二	112	文京区後楽2-23-15	815-5277
幹事	社会思想社	渡辺 和彦	113	文京区本郷1-25-21	813-8105
幹事	春秋社	神田 治	101	千代田区外神田2-18-6	255-9611
	晶文社	萬洲 隆男	101	千代田区外神田2-1-12	255-4501
	誠信書房	濱地 正憲	112	文京区大塚3-20-6	946-5666
	創元社	重光 義彦	162	新宿区山吹町77	269-1051
幹事	筑摩書房	菊池 明郎	101	千代田区神田小川町2-8	291-7651
	東海大学出版会	岡田栄三郎	160	新宿区新宿3-27-4 東海ビル	356-1541
休会中	東京創元社		162	新宿区新小川町1-5	268-8231
会長	東京大学出版会	中平千三郎	113	文京区本郷7-3-1	821-2111 内7955
	〃	竹内 康一		〃	811-8814
	日本評論社	後藤 光行	160	新宿区須賀町14	341-6161
	福村出版	福村 惇一	112	文京区小石川1-3-17	813-3981
	平凡社	伊藤 隆	102	千代田区三番町5 Kビル	265-0455
	法政大学出版局	市川 昭夫	102	千代田区富士見2-17-1 法政大学構内	237-1731
代表幹事	みすず書房	相田 良雄	113	文京区本郷5-32-21	814-0131
	未来社	西谷 能英	112	文京区小石川3-7-2	814-5521
	雄山閣出版	武 一雄	102	千代田区富士見2-6-9	262-3231
	有斐閣	佐藤 進	101	千代田区神田神保町2-17	265-6811
	吉川弘文館	川越 重行	113	文京区本郷7-2-8	813-9151

販売委員会 ◎菊池 ○萬洲 石橋 後藤 伊藤 佐藤 川越  
 弘報委員会 ◎原田 ○橋本 岡田 西谷 武  
 調査・企画委員会 ◎渡辺 ○竹内 濱地 重光 福村 市川  
 ◎印は委員長 ○印は副委員長

東海大学出版会

尾崎雄二郎編 『説文解字』は後漢の許慎による中国最古の字形字典、今日の漢和辞典の祖型にあたる。本書は段玉裁による段注の本邦初訳。

定価29000円 金冊 発売中 定価24000円

田中巽著 四〇余年にわたって検索・収集・整理した二四〇〇に及ぶ銅鐸の所在 年代、型式、文様特徴、関連論文などを明示。 定価22000円

東京都新宿区新宿3-27-4 東海ビル ☎356-1541

創元社

町沢静夫十吉本隆明  
遊びと精神医学

精神科医の俊英が、遊びやユーモアの精神医学的意義を考察、さらに文学と遊びの関係、フロイト、ユングの評価、思想家の生き方など、白熱した対話を交す。 一三〇〇円

上野千鶴子十宮迫千鶴

変態日本のマザコン社

つるつる多型倒錯  
会を撃つ、笑いと怒りの両性自立論

世界紛争地図

A・ポイド 辻野功ノ  
藤本篤訳 一五〇〇円

大阪市北区西天満1丁目4-2  
東京都新宿区山吹町77番地

木幡順三 著

# 美意識論

付・作品の解釈

美学の中心問題である“美意識論”を、哲学史的・美学史的観点から見直し、その根底をなすものについて省察した『美意識論』、文芸学のあり方にふれつつ、芭蕉・実朝等の作品を例に、文芸作品の注釈と解釈と評価の問題を具体的に論じた『作品の解釈』を収める。 定価2800円

東京大学出版会

03(811)8814

刊行迫る！

# 岡村昭彦集

全6巻／岡村春彦・暮尾淳編

ヴェトナム・ドミニカ・ピアフラなど世界史の現場から二十一世紀の問題を見据えた国際ジャーナリスト20年の軌跡。四六判上製カバー装

第1回発売●3月25日 予2800円

①南ヴェトナム戦争従軍記

続刊 ②③世界史の現場から I II ④我々はどんな時代に生きているのか ⑤未来の生命のために ⑥ホスピスへの遠い道

東京神田

筑摩書房

小川町2

# 犯罪報道は 変えられる

浅野健一著 1600円  
いま、取材報道現場で何かが起こる...

# どこへ行く 中国経済

南 亮進著 1600円  
開放経済へひた走る中国の現状解説

# 開戦前夜

三好徹・佐木隆三・井出孫六・  
小中陽太郎著 1300円  
いまこそ正しい時代の選択が必要だ

☎03-341-6161  日本評論社

## 夜の合戦

16・17世紀の魔術と農耕信仰  
ギンスブルグ 異端裁判の舞台で、交差する審問官の上層文  
化と民衆の文化。新しい歴史の息吹き。上村忠男訳 3300円

## 作家ソレルス

バルト 作家と批評家の創造的な相互関係とは？ 肩ごしに  
テクストを読みこむ、出色の作家論。岩崎・二宮訳 2200円

## 象徴的実現

分裂病少女の新しい精神療法  
セシュエー 《分裂病の少女》ルネへの臨床記録。堅く閉ざ  
された病者の心の世界に光をあてる。三好・橋本訳 2200円

## 精神分裂病

《精神医学》I  
クレベリン 現代精神医学の基礎を築いた著者の代表作。分  
裂病をばじめて規定した古典。西丸四方・車夫訳 2400円

東京文京本郷  
3丁目17-15

みすず書房

## 法政大学出版局

法政大学大原社会問題研究所編  
◆複製シリーズ《日本社会運動史料》機関紙誌黒◆

号外・産業労働通信を含む完全複製◆内容見本呈  
全17巻

# プロレタリア科学

別巻 ◆全24巻・別巻1/完結！  
別巻は解題・総目次・索引(人名・組織名/主題別/  
書名/広告)より成る。全頁新組 各A5判/分売可  
別巻定価 5万8千円・特別定価 3万5千円/セット定  
価 10万 千円・特別定価 1万9千円 1/月末日返

102 東京都千代田区富士見2-17番 電話東京6-95814 ☎03-237-1731

山之内 晴著

# 社会科学の現在

定価二八〇〇円

社会科学は現在、一九七〇年を境として顕在化した諸事象  
(生態学的諸問題)に対応する能力を喪失している。本書は  
従来の研究蓄積の上に立ちマルクス学とウエーバー学を自  
然との関わりに於て根本から吟味し直した知的格闘の所産

マルクス・エンゲルスの世界史像

山之内 晴著

マックス・ウェーバー

W・J・モムゼン著

価値自由と責任倫理

W・シュルプター著

現世支配の合理主義

W・シュルプター著

3500 1800 2400 2500

東京・文京 小石川3-7 未来社 電話・代表 (814) 5521

# 民具研究ハンドブック

岩井宏實・河岡武春・木下忠編

2500円

日常生活にこく普通に使われてきた伝統的な道具・民具を概説し、新しい研究方法を示す。民具学界の総力を結集。

# 民具調査ハンドブック

岩井宏實・河岡武春・木下忠編

2500円

おびただしい数の民具の収集・整理の具体的方法を示し、重要有形民俗文化財・施設、文献解題などを付す。

雄山閣出版

東京都千代田区富士見2-6-9 ☎03-262-3231

読む見る楽しむ。新時代の歴史百科。

# 国史大辞典

全15巻

総項目四万五千、最新の研究を盛り込み、高度な内容をわかりやすく解説。文化・社会・宗教などの周辺諸学からも、必要項目をこまかく網羅する。

- 第1巻(あーい) 一〇,〇〇〇円
  - 第2巻(うーお) 一〇,〇〇〇円
  - 第3巻(か) 一〇,〇〇〇円
  - 第4巻(きーく) 一〇,〇〇〇円
  - 第5巻(けーこ) 一〇,〇〇〇円
  - 第6巻(こーし) 一四,〇〇〇円
  - 第7巻(じーし) 一四,〇〇〇円
- 61年秋刊予定

吉川弘文館

東京都文京区本郷7-2-8 / 電話03-813-9151

# 日本歴史考古学

坂詰秀一編  
森郁夫

# を学ぶ

全5巻  
[有斐閣選書]

最近三〇年間に於ける発掘調査の成果をふまえ、これまでの史学では解けなかった「歴史」時代への考古学からの照明。

(中) 宗教の諸相 歴史考古学の主軸をなす宗教考古学の成果を鳥瞰。一五〇〇円

(下) 生産の諸相 全巻のまとめとして総括的論点を解明。近刊 予一五〇〇円

好評既刊 (上) 政治・経済・生活の諸相 一七〇〇円



東京都千代田区神田神保町2-17 ☎03-264-1311

林直道著

〈46判〉 予定価二二〇〇円

# 百人一首の世界

言葉の魔術師・藤原定家が、百首の和歌にこめたメッセーシの全貌はこれだ!!

前著『百人一首の秘密』(青木書店、一四〇〇円)で世間をアツといわせた著者が、驚嘆すべき推理力と執念の実証でこまかく解明——百人一首のものごころの読み方・楽しみ方をみつげよう!

青木書店 東京神田神保町1-60 電話 03(292)0481

## 大月書店

東京文京本郷2-11  
03(813)4651(代表)

# 写真集 わたたちの昭和史

喜びと、悲しみと、怒りと、たたかいと……  
わたたちがつくった感動の写真記録

- はじめて完成した、次の手にある、わたしの昭和史
  - 戦争と平和を語るにすぎない、目と心ある女性史
  - 昭和に生きる女の生活の実相にせまる
  - 労働・社会参加文化創造にける女の群像を追う
  - ナイロ(国際舞)入りの女性解放運動の発展をえぐく
  - 誰かが親しめ、学習テキストとしても最適
- 写真450点・176頁・A4判変型・定価2500円(税別)

## 御茶の水書房 韓国現代社会叢書

滝沢秀樹・安乗直編  
全5巻/四六判/各2500円

- 李泳禧/高崎宗司訳  
第1巻 分断民族の苦悩  
朴玄塚/滝沢秀樹訳  
第2巻 韓国資本主義と民族運動  
姜萬吉/水野直樹訳  
第3巻 韓国民族運動史論  
白楽晴/滝沢秀樹監訳  
第4巻 民族文化運動の状況と論理  
安乗直/宮島博史訳  
第5巻 日本帝国主義と朝鮮民衆

〒102 東京都千代田区九段北1-8-2  
電話 03(265)5746/振替東京 8-14774

## トーマス・マン日記

1911-1929  
定価八五〇〇円

トーマス・マン/浜川祥枝、他訳  
マンの死後二十年、初めて公にされた膨大な日記をそのままの形で公刊したもの。マンやドイツ文学研究に欠かせない貴重な資料。全八巻予定のうちの第一巻にあたる。

## 紀伊國屋書店

本店：東京都新宿区新宿3-17-7 ☎(354)0131  
出版部：東京都世田谷区桜丘5-38-1 ☎(439)0125

## 相対性理論の哲学

廣松 渉 アインシュタイン・シュロクを受けとめ、現代哲学のパラダイム・チェンジをめざす。1800円  
佐々木健一編 ブラック、ピアズリ、サール等、20世紀メタファー論の軌跡と創造の可能性を探る。2400円  
2400円  
300

## 創造のレトリック

丸山高司 自然科学の方法と歴史重視の解釈学的方法の対立を解きほぐし、統一の方途を展望する。2000円  
250

## 人間科学の方法論争

和田春樹・梶村秀樹編 八〇年代における民主化運動の特質が浮かぶ生々しい諸文献の翻訳と紹介。2200円  
250

## 韓国の民衆運動

東京文京後楽2-23

勁草書房 振替東京 5-175253

非売品

昭和61年3月10日発行 年4回発行 第44号  
発行所 人文会 みすず書房内  
〒113 東京都文京区本郷5-32-21  
(113-91 東京都文京区 本郷局私書函89号)

回覧者印	回覧者印	回覧者印	回覧者印